

## お母さんの声

**まずは出かけてみる。**

**県** 外出身ですが、安曇野には率先して地域が母子に声を掛ける雰囲気があると思います。一歩外に出ると、色々な交流の場があるので、まずは出かけてみるのが大切かもしれません。

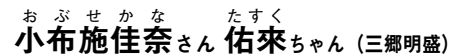
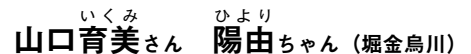
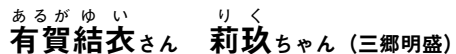
気を使う人も多いのでは。

**ア** パート暮らしの世帯も多くなってきて、周りに気を使っているお母さんも多いように思います。日曜日に安心して子どもを遊ばせられる環境も減ってきているのだと思います。

**地域の目ありがたい。**

**私**の暮らす地域はまだ温かい雰囲気がある、「何力月？」と話し掛けられます。たまには大人と喋りたいということもあり、気分転換になります。地域の目があって、見守りが残っていることがありがたいです。

おぶせかな たすく  
小布施佳奈さん 佑来ちゃん (三郷明盛)



小さな支えがうれしい

「ちよつとでも間が持つよう  
な所が周りにあつて助か  
つたと思っています」と話す岸田  
清香さん。夫と紗和ちゃんの3人  
で穂高のアパートに暮らしていま  
す。子育ての疑問は、月に1回行  
くと決めている母乳育児相談や実  
家の母親に聞いています。

助けてくれる所がある

る子どもを近くの女性が「いいのよ、いいのよ」とあやしてくれました。清香さんは、地域の緩やかなつながりに安心感を持ったそうです。

**現** 在、清香さんの一番の悩みは自身の仕事の問題です。

「児童館に行ったら、就労相談の情報が意外でした。一步が出れば、思っている以上に行政だったり、福祉団体だったり、助けてくれる所があると感じました」。

最初の一步が大事だと、清香さんは感じています。

子育ては、不安や悩みが多くて当然です。

核家族化が進む現在、お母さんが孤立するケースも少なくありません。

市の取り組みや地域社会で求められていることを探ります。

ひとりぼっちのお母さんを減らそう

子育ては、不安や悩みが多くて当然です。

13.6%が「解決方法が分からない」

## 核

家族化の進行や地域のつながりが薄れてきたことな

ど、子育てを取り巻く環境は、近年、大きく変化しています。

そのような中で、子育てに不安や孤立感を感じる家庭は少なくありません。

市の乳幼児健診の際に行ったアンケート調査では、「育てにくさ」を感じた時、相談先を知っているなど、何らかの解決方法を知って

いと答えた母親は86・4%。解

決する方法を知らないと答えた母親は13・6%という結果でした（下

図参照)。悩みを抱える家庭にとつては、身近にいて気軽に相談できる存在が欠かせません。

また、子育てに対する

地域の温かな眼差しと

緩やかなつながりが  
求められています。

育てにくさを感じたとき、  
何らかの解決方法を知っている



86.4%  
はい

厚生労働省「健やか親子 21 (第 2 次)」の指標に基づき、市が実施した乳幼児健診問診項目より抜粋。